

秋田県地域公共交通計画に係る各種調査の実施状況について

1. 各種調査の実施状況について

○地域公共交通計画の策定に当たり、県民の移動や公共交通の利用実態など本県の公共交通を取り巻く状況の把握を目的として、市町村、交通事業者、関係団体等の協力をいただきながら各種調査を順次行っている。

○各種調査の概要及び実施状況については以下のとおりである。

各種調査の概要

調査内容	調査対象	調査方法	調査時期
県民アンケート調査 ^(※)	○県内居住の 6,500 人 ○18 歳以上の有権者	○郵送配布・郵送回収	R3.10 月発送予定
高等学校アンケート調査	○県内の高等学校	○メールによる配布・回収	済 (R3.7~8 月)
市町村アンケート調査	○県内全市町村	○メールによる配布・回収	済 (R3.7 月)
交通事業者等ヒアリング調査	○県内の交通事業者・団体等	○直接訪問、もしくは WEB によるヒアリング	済 (R3.7~8 月、10 月終了)
広域路線バス乗り込み調査	○県内の地域間幹線系統 20 系統	○調査員の乗り込みによる現地調査	調査済/集計中 (R3.8~9 月)
主要交流拠点乗り継ぎ実態調査	○秋田県の主要な交通拠点の利用者	○WEB アンケートによるサンプル回収	R3.10 月
主要団体等アンケート調査	○主要な施設・団体	○郵送配布・郵送回収	R3.10 月
交通拠点利用環境調査	○県内の主要な交通拠点	○調査員の目視等などによる現地調査	R3.10 月

(※) 部会で指摘のあった高齢者の視点は、この結果を踏まえて計画に反映。

2. 高等学校アンケート調査について

(1) 調査の概要

○高等学校アンケート調査の実施概要及び調査の項目については以下のとおりである。

実施概要

項目	概要
調査目的	○高校生の市町村を跨ぐ通学実態や、高校におけるスクールバス等の運行実態等の把握
調査対象	○県内の全高等学校（全 52 校）定時制除く
調査方法	○メールによる配布・回収
回収数	○全 52 校中 39 校の回答（回収率 75%） <u>(※)</u> 山本圏域 2 校、秋田圏域 15 校、仙北圏域 7 校、平鹿・雄勝圏域 4 校、北秋田・鹿角圏域 5 校、由利圏域 6 校 <u>(※) 未回答の高等学校については現在回答を再度催促中</u>

項目設定

調査項目	把握内容（概要）	設問設定の意図
通学実態の把握	○在校生徒数 ○基本的な登校時間、通学手段 ○通学手段に関する問題点	○現状の通学実態を把握 ○通学に関する問題点を把握
公共交通を用いた通学に対する意向	○公共交通での通学に対する意向	○公共交通により通学できない理由の把握 ○公共交通により通学する場合に必要なことの把握
スクールバスの運行実態	○スクールバスの運行の有無 ○スクールバスの運行の概要	○スクールバスの運行実態の把握
公共交通に対する意見・要望	○運行時間・場所、待合環境等 ○現状の公共交通に対する意見の把握	○現状路線の改善点の把握

(2) 調査結果の概要

①各市町村における高校生の通学地

○県内の高校は各圏域の中心市に多く立地することから、それらの市においては居住地内での通学実態が見られる。

○他方で、高校が立地していない町村については、通学のため、自治体を跨ぐ広域的な移動が発生している。

◆高校生の居住地ごとの主な通学先（割合）

【参考】表の見方（例）：

居住地（縦軸）が秋田市の学生は、通学地（横軸）が秋田市の人が87.9%、潟上市の人が6.0%、男鹿市の人が2.5%。仙北市の学生は、通学地が仙北市の人が65.2%、大仙市の人が28.4%。

割合		秋田圏域							山本圏域				北秋田・鹿角圏域					由利圏域		仙北圏域			平鹿・雄勝圏域				県外	不明		
		秋田市	潟上市	男鹿市	八郎潟町	井川町	五城目町	大潟村	能代市	藤里町	八峰町	三種町	大館市	北秋田市	鹿角市	小坂町	上小阿仁村	由利本荘市	にかほ市	仙北市	大仙市	美郷町	横手市	湯沢市	羽後町	東成瀬村	県外	市区町村「不詳・外国」	不詳	合計
秋田圏域	秋田市	87.9%	6.0%	2.5%			0.8%		0.4%				0.1%	0.1%			1.0%	0.0%		1.1%		0.0%								100.0%
	潟上市	55.6%	17.5%	17.6%			7.7%		1.1%					0.2%			0.3%													100.0%
	男鹿市	46.0%	16.8%	34.9%			1.4%		0.6%								0.3%													100.0%
	八郎潟町	55.9%	9.8%				16.7%		16.7%				1.0%																	100.0%
	井川町	71.4%	10.7%	4.8%			10.7%		2.4%																					100.0%
	五城目町	36.1%	15.0%	0.8%			31.6%		15.8%												0.8%									100.0%
	大潟村	45.7%	4.3%	1.4%			18.6%		25.7%									4.3%												100.0%
山本圏域	能代市	5.0%	0.4%	0.1%			0.2%		87.9%				1.2%	5.0%						0.1%										100.0%
	藤里町	4.5%							65.9%					29.5%																100.0%
	八峰町		1.1%	1.1%					97.9%																					100.0%
	三種町	17.9%	2.1%				5.8%		70.4%					3.7%																100.0%
北秋田・鹿角圏域	大館市	0.8%		0.1%				0.8%					89.2%	8.8%	0.3%															100.0%
	北秋田市	1.4%						13.2%					21.3%	63.8%	0.2%					0.2%										100.0%
	鹿角市	1.0%						0.4%					29.8%	0.6%	68.3%															100.0%
	小坂町												51.0%	2.0%	46.9%															100.0%
	上小阿仁村	8.7%											30.4%	60.9%																100.0%
由利圏域	由利本荘市	4.0%		0.1%										0.1%			91.6%	4.0%		0.2%										100.0%
	にかほ市	2.1%															77.1%	20.3%		0.4%	0.2%									100.0%
仙北圏域	仙北市	1.1%											0.4%						65.2%	28.4%	4.7%	0.2%								100.0%
	大仙市	5.4%	0.1%										0.1%				0.1%	17.6%	59.3%	5.2%	12.3%									100.0%
	美郷町	1.3%	0.3%					0.3%											10.8%	49.5%	18.9%	18.9%								100.0%
平鹿・雄勝圏域	横手市	1.1%																	0.4%	7.5%	0.9%	90.0%								100.0%
	湯沢市	6.1%											1.7%				1.7%			8.7%		81.7%								100.0%
	羽後町	8.2%																		12.2%	2.0%	77.6%								100.0%
	東成瀬村																33.3%					66.7%								100.0%

【赤字下線部分は部会で得られた意見を踏まえた追記・修正箇所等】

②高校生の通学手段

【凡例】



徒歩又は自転車、



スクールバス、



広域路線バス、



コミュニティバス等、



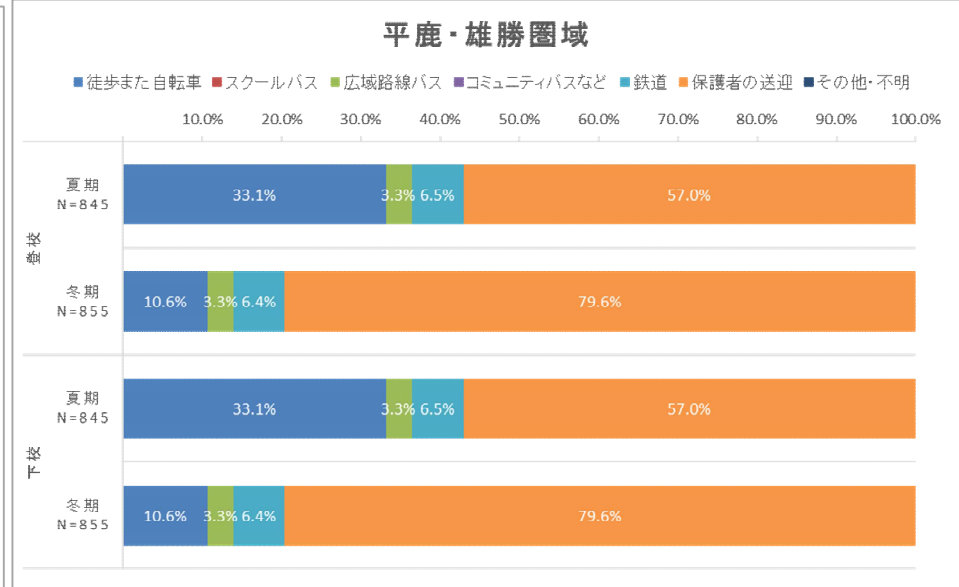
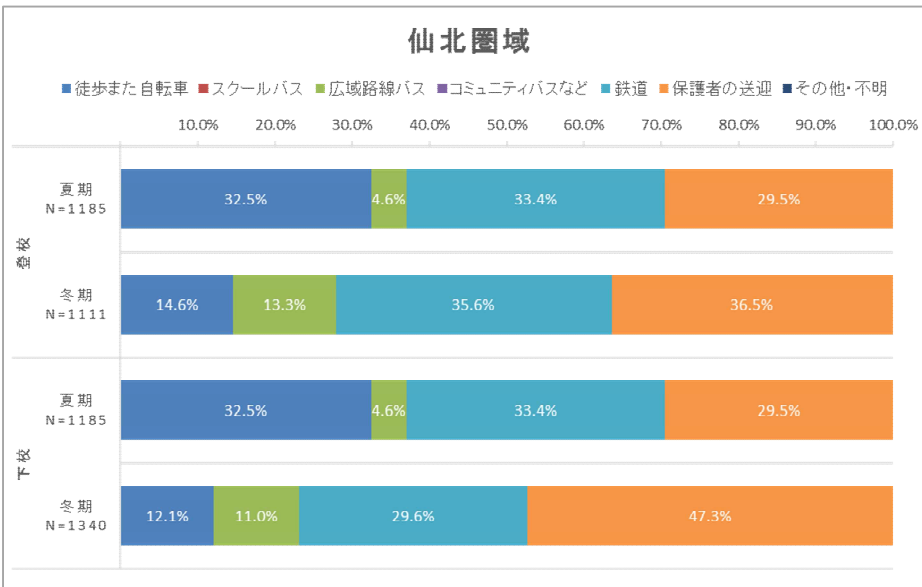
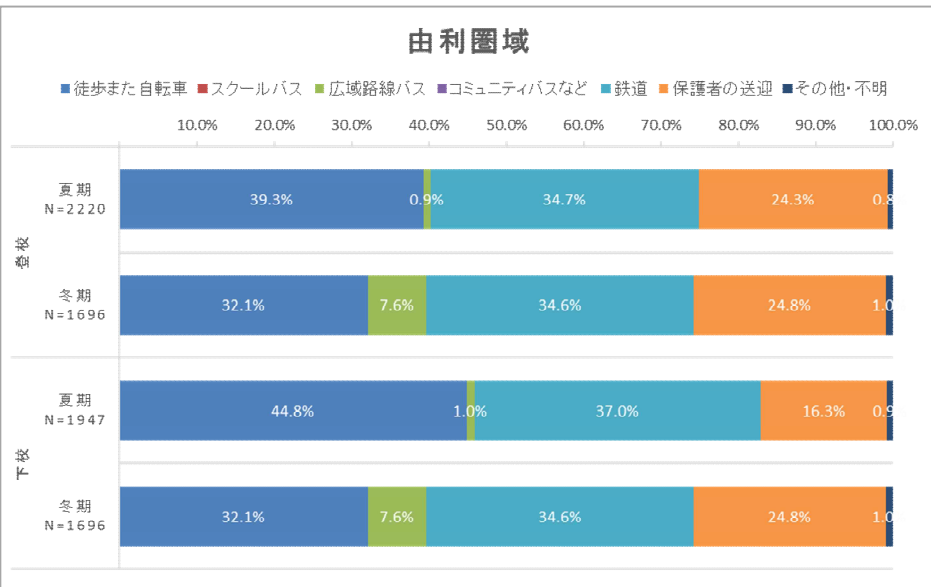
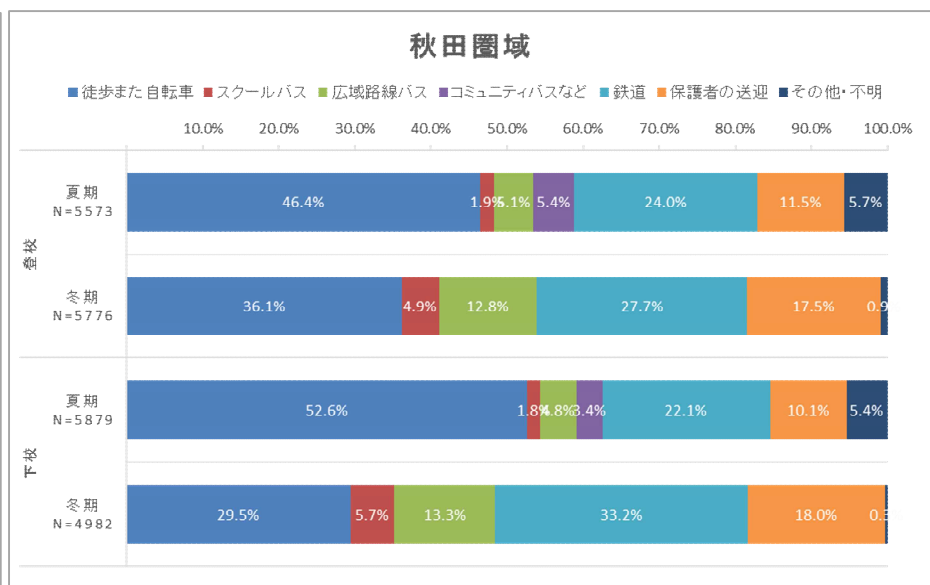
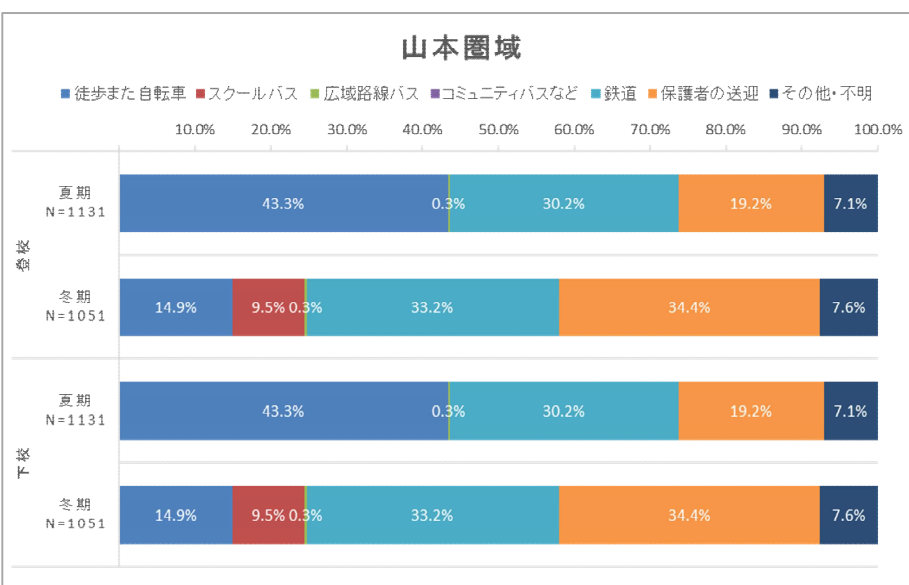
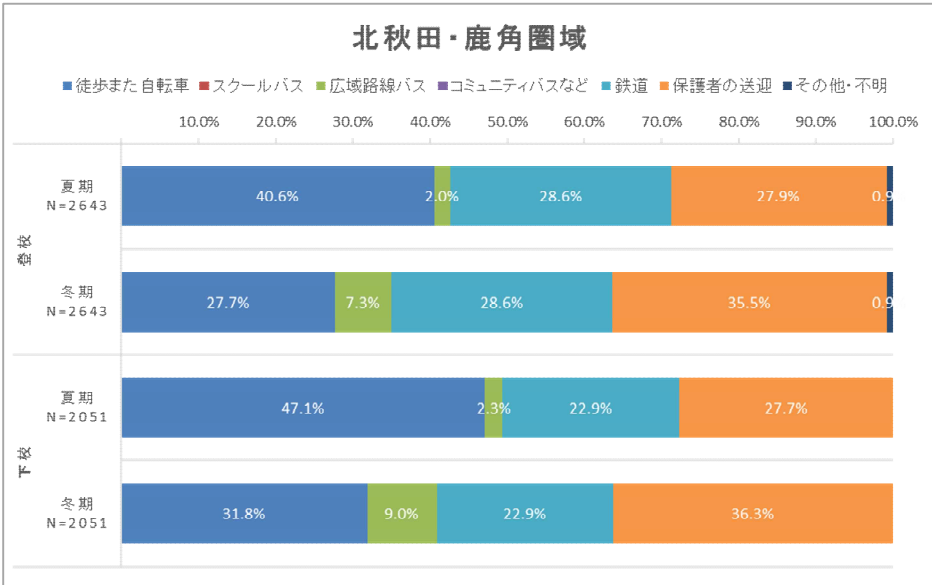
鉄道、



保護者の送迎、



その他・不明



【赤字下線部分は部会で得られた意見を踏まえた追記・修正箇所等】

③スクールバスの運行実態

○スクールバスを運行する高校は全県で3校/39校あり、JR駅などから学校まで運行している。3校のうち2校はバス事業者へ委託（うち1校は冬期間のみ）、その他の1校は学校が自ら運行している（アンケート回答結果に基づく）。

④学校としての公共交通利用に対する考え

○「生徒に公共交通を積極的に利用させたい」と考えている高校が7校/39校あり、その主な理由は「送迎による周辺道路の渋滞・混雑等の発生する状況の緩和」となっており、公共交通の利用促進に向けた連携が期待できる。

⑤公共交通に対する要望

○運賃や運行本数の改善や、冬季の天候による影響への配慮・時間設定等に関する要望が多かったほか、各高校の個別事情による要望（JR駅とのバス路線の開設など）があった。

【運賃・運航本数の改善関係】

圏域	学校	今後の公共交通に対しての要望
秋田圏域	A 高	運賃や運航本数の問題が解決されることが望ましい
	B 高	電車の本数を増やしてほしい
仙北圏域	C 高	JR 田沢湖線は下校時間帯（19 時台）を 1 本増便してもらえただけでも生徒の負担はだいぶ減るのではないかな。
平鹿・雄勝圏域	D 高	利用料金を値下げしてほしい。
北秋田・鹿角圏域	E 高	利用者増加のために運賃の値下げなど検討していただければありがたい。
由利圏域	F 高	定期券の半額制度を次年度も継続していただきたい。
	G 高	冬季はバスの利用生徒が増えるため、バスの増便の要望がある。

【冬期の天候による影響への配慮・時間設定】

圏域	学校	今後の公共交通に対しての要望
秋田圏域	H 高	JR を利用する生徒が多いため、特に冬期の降雪による電車遅延を考慮して対応していただければ大変有り難い。 ※あきらかに電車の遅延が発生している場合には、臨機応変に対応していただいている。今後も、朝の増発便や降車場所へのご協力を継続していただくことを希望している。
	I 高	バスの運行時間を通学の時間に合わせた運行を依頼したい。冬季期間中では遅刻になる。バスの運行を変えるか、JR の運行を変えなければ、ゆとりを持った時間割の編成ができない。
仙北圏域	J 高	バスは降雪の遅れを考慮して時間設定をして欲しい。
	K 高	降雪による遅れを考慮して運行時間を設定してもらいた

【赤字下線部分は部会で得られた意見を踏まえた追記・修正箇所等】

		い。
北秋田・鹿角圏域	L 高	降雪による遅れを考慮して時間設定してほしい(バス)
	M 高	降雪による遅れを考慮して時間を設定してほしい。

【その他】

圏域	市町村	今後の公共交通に対する要望
秋田圏域	N 高	今後、連携している中学校以外からの入学者が増加すると思われるので、JR 及びバスの利便性を向上して欲しい。
	O 高	定期路線バスに関しては、朝の通学用バスだけでも到着時間が学校始業時間に即した形での運行をお願いしたい。また、市街地方向以外からのバスも懇願したい。
仙北圏域	P 高	保護者から甲駅と学校間のバス運行の要望がある。奥羽本線沿線の駅の無人化をこれ以上進めないでほしい。

(3) 調査から導き出される主な課題・論点

○通学手段としての公共交通利用を十分に掘り起こせていない（掘り起こす余地がまだある）

・高校生等に対して、入学時の公共交通に関するガイダンス、定期券 PR などを実施できないか。

・公共交通利用を促したいと考える高校との更なる連携はできないか。

・登下校の時間帯を捉まえた運行時間、運行本数や、利用者増を促す運賃（割引）の設定ができないか。

（運行時間、運行本数については単一モードだけでは対応が困難であれば、モード連携の可能性はないか）

・雪国・秋田ならではの降雪期の運行の安定性、運行状況の予見可能性を向上させる取組は考えられないか。

3. 市町村アンケート調査について

(1) 調査の概要

○市町村アンケート調査の実施概要及び調査の項目については以下のとおりである。

実施概要

項目	概要
調査目的	○自治体主体や団体・民間主体による市町村を跨ぐ移動サービス等の実態、及び広域公共交通の運行に対する考えや交通拠点の設定に対する考えなどの把握
調査対象	○県内 25 市町村の公共交通担当者
調査方法	○メールによる配布・回収
回 収 数	○全 25 市町村中 25 市町村（回収率 100%）

項目設定

調査項目	把握内容（概要）	設問設定の意図
広域的な公共交通について	・自治体単独で行っている補助内容 ・広域的な公共交通（鉄道・路線バスなど）に対する問題意識 ・広域的な公共交通に対する再編の意向及びそれによる影響等の想定 ・広域的な公共交通の維持に向けて必要と考える事項等	・喫緊の課題を抱える広域的な公共交通の把握 ・広域的な公共交通の維持に必要な事項等の把握、補助事業等のあり方に関する検討の基礎資料として活用
市町村を跨ぐ移動サービス（公共交通以外）	・市町村を跨ぐ移動サービスの実態（運行主体・運行事業者・サービス概要など）	・公共交通以外の移動サービスの実態等の把握、公共交通との役割分担の検討の基礎資料として活用
交通拠点について	・広域的な交通拠点と接続する自治体内の拠点に対する考え ・今後新たに拠点となる施設の予定など	・広域的な拠点設定の基礎資料として活用 ・拠点評価にあたっての定性的な評価項目として活用
域内交通について	・域内交通の再編の意向及びその内容	・域内交通の再編の意向、再編にあたっての課題等の把握
交通空白地域について	・自治体における交通空白地域（不便地域）の設定状況・考え	・県内における交通空白地域の設定状況等の把握
オープンデータ化について	・オープンデータ化に向けた自治体としての取組状況・今後の予定など	・勉強会の開催や今後の施策展開に向けての市町村の意向の把握
移動手段の確保に向けた取組について	・コロナ禍における公共交通の維持のための取組 ・今後の移動手段の確保に向けた市町村としての取組	・市町村の取組の詳細の把握及び今後の水平展開等への活用

(2) 調査結果の概要

①市町村の財政負担

- 多くの市町村において、過去3か年の公共交通に対する交付額・補助額は増加傾向にある。特に乗合バス（事業者運行バスへの補助、コミュニティバスの運行経費）への公費支出のウェイトが大きい。
- コロナ禍により利用が落ち込んでいる交通事業者に対し、臨時的な措置として、各市町村がそれぞれの地域の実情に応じた支援を行っている。

②広域交通のうち、短期・中期的に維持が厳しいと感じる路線の有無

- 多くの市町村が、通勤・通学・通院・買い物など日常生活の移動手段として、広域交通（※）の必要性を認識しており、そのうち、地域間幹線補助の対象となっているバス路線についてはその全てについて維持の必要性が認識されている。
（※）市町村を跨ぐ路線バス、マイタウンバスに限定
- 他方、広域交通について、多くの市町村が、年々欠損額が増加し、財政的な負担が大きいと感じているほか、利用者の減少により国庫補助の対象から外れてしまうことに対して懸念を持っている。

③乗継拠点として重要と考える拠点の有無

- 21市町村が、公共交通の乗継等を行う上で重要な拠点が「ある」と回答しており、鉄道駅や主要なバス停・ターミナル、主要施設等を挙げている。

【赤字下線部分は部会で得られた意見を踏まえた追記・修正箇所等】

市町村名	重要拠点有無	重量な接続拠点・駅・バス停名
秋田市	あり	鉄道駅については、乗換拠点として重要なポイントとして考えているほか、今後、路線網の再編を検討する中で、新たな乗換ポイントを設置する必要があると考えている。
潟上市	あり	バスとの接続：潟上市役所、天王グリーンランド、追分駅、大久保駅 鉄道との接続：二田駅、追分駅、大久保駅
男鹿市	あり	男鹿駅、男鹿みなと市民病院、男鹿温泉郷
八郎潟町	あり	八郎潟駅、湖東厚生病院
井川町	なし	
五城目町	あり	五城目バスターミナル、イオンスーパーセンター五城目店
大潟村	あり	JR八郎潟駅
能代市	あり	<u>能代バスステーション、二ツ井駅、能代駅</u>
藤里町	あり	藤琴大町(バス停)、二ツ井駅
八峰町	無回答	
三種町	あり	地域間幹線系統への接続拠点：八竜ふれあいセンター 町営バス・JRへの接続拠点：鹿渡駅、森岳駅
大館市	あり	結節点：市立病院前 乗継拠点：大館駅前、扇田病院前、早口駅前
北秋田市	あり	JR鷹ノ巣駅、内陸線鷹巣駅、内陸線米内沢駅
鹿角市	あり	鹿角あんとらあ前、鹿角花輪駅
小坂町	あり	小坂小学校前バス停
上小阿仁村	なし	
由利本荘市	あり	羽後本荘駅、矢島駅、岩城みなと駅、羽後亀田駅、前郷駅、道の駅おおうち、道の駅東由利、西目駅、道の駅西目、鳥海菜らんど
にかほ市	あり	旧町の各駅への接続は確保している。
仙北市	あり	<u>田沢湖駅、角館駅</u>
大仙市	あり	接続拠点：協和支所、南外支所、神岡支所、中仙支所、太田支所 JR駅：大曲駅、羽後長野駅、神宮寺駅、刈和野駅、羽後境駅 バス停：大曲バスターミナル
美郷町	なし	
横手市	あり	JR駅：横手駅、十文字駅、柳田駅、醍醐駅、相野々駅、黒沢駅、小松川駅 バス停：横手バスターミナル
湯沢市	あり	湯沢駅(駅前)
羽後町	あり	桮橋(バス停)
東成瀬村	あり	十文字案内所前、湯沢営業所

【赤字下線部分は部会で得られた意見を踏まえた追記・修正箇所等】

④交通空白地域・交通不便地域の基準の有無等

○8市町村が独自の基準を設けている。

市町村名	具体的な基準内容
潟上市	バス停から 500mの範囲
五城目町	生活バス路線のバス停から半径 300m圏外かつ JR 駅から 700m圏外
藤里町	・ 路線バスのバス停がない地域 ・ バス停から 500m以上離れている地域 ・ 路線バスが運行していない時間帯がある地域
大館市	鉄道駅から 800m圏外かつバス停から 300m圏外
鹿角市	バス停から 2 km以上
由利本荘市	バス停から 300m、鉄道駅から 800mより離れている所
大仙市	鉄道駅から概ね 700m以上、もしくは路線バスの乗入がなく最寄りのバス停までの距離が概ね 300m以上の場所にある 10 世帯以上の自治会を単位とする地域
横手市	●交通不便エリア： 最寄りのバス停まで非常に遠く、タクシーやデマンド交通を利用しても高額な料金が必要なエリア（最寄り駅のバス停や代替交通の乗降地点から概ね 2 km以上離れているエリア：タクシーメーター料金 910 円超、1 人利用デマンド交通料金 500 円超のエリア）。 ●準交通不便エリア： 最寄りのバス停や代替交通の乗降地点から約 300m、最寄り駅まで約 500m以上離れているエリア

○上記のような独自基準の設定をしていない 17 市町村（※）で空白地域・不便地域が「ある」と回答。

⑤公共交通の維持に向けて県に求める支援策 ※（ ）内は市町村数

- 公共交通等の制度等に関する勉強会の開催（12）
- 関連市町村との協議の場の設定（6）
- 見直しに係るマニュアル等の配布（6）
- 公共交通の専門家等の派遣（5）
- 交通事業者との協議の場の設定（4）
- 財政支援の拡充（4）
- 先進地域のベストプラクティスの紹介（3） など

【赤字下線部分は部会で得られた意見を踏まえた追記・修正箇所等】

(3) 調査から導き出される課題・論点

○財政負担水準の維持・改善と、取り巻く環境が厳しい公共交通の維持を両立させるのが難しくなっている（いく）

・ ~~広域交通、コミュニティ交通との関連性、モード間の接続拠点、乗継（幹線⇄生活交通、異なるモード間含む）の利便性は十分か（乗継時間の短縮など）。~~

・ 交通空白・不便地域をより一層意識した施策展開を図っていく必要があるのではないか。

・ 利用者を増やす取組の充実が喫緊で必要ではないか。その取組の企画立案を担う市町村や交通事業者などのスキルアップ、知見獲得の機会は十分か。

・ 県、市町村ともに、限られた財政の中で、より地域によって望ましい、実情に即した支援の在り方を追求する必要があるのではないか。

4. 交通事業者ヒアリング調査について

(1) 調査の概要

○交通事業者ヒアリング調査に係る調査の実施概要については以下のとおりである。

項目設定

項目	概要
調査目的	○公共交通等の運行に関する定性的な問題点の把握、及び今後の運行に対する事業者の意向などを把握
調査対象	○バス事業者：秋北バス、秋田中央交通、秋田中央トランスポート、羽後交通 ○タクシー事業者：秋田県ハイヤー協会 ○鉄道事業者：秋田内陸縦貫鉄道、由利高原鉄道 JR東日本秋田支社（今後実施予定） ○航路事業者：新日本海フェリー ○空港事業者：秋田空港ターミナルビル、大館能代空港ターミナルビル ○レンタカー事業者：秋田県レンタカー協会
調査方法	○直接訪問、もしくはWEBによるヒアリング

(2) 調査結果の概要

①運行上の課題（広域路線バス）

- 利用者の減少等により、補助要件を満たさない路線があり、コロナ禍収束後であっても維持が困難となるおそれがある。路線は維持しつつ、再編について市町村との協議が必要である。
- 今後の学校再編の動きを注視しながら再編を進める必要がある。
- 一部で市町村が運行する路線との競合が起きているほか、鉄道との重複についても課題と感じている。
- 市町村との調整のみで再編が難しい場合は県への仲介をお願いしたい。

②運行上の課題（広域路線バス以外のバス・乗合タクシー）

- 乗車密度等の条件により県補助対象外となった路線の維持が非常に困難であり、今後も増えるおそれがある。
- 市町村が運行するデマンド型乗合タクシーへの対応のため、一般タクシーのドライバーが不足する場合もある。

③利便性の向上（主にバス）

- 一部の乗合バス路線等において、キャッシュレス化を導入、又は導入の予定があるものの、その他の路線では経費面から導入を見送っているケースもある。
- 交通情報のオープンデータ化の意義は認識しているが、マンパワーが課題である。

【赤字下線部分は部会で得られた意見を踏まえた追記・修正箇所等】

○一部の乗合バス路線等において、バスロケーションシステムを導入、今後も導入を検討している路線がある。デジタルサイネージを導入したいがコスト面の懸念がある。

○車両の更新に当たっては、中古車にならざるを得ず、新車の購入は難しい。

○タクシーについてもバス同様キャッシュレス化を進めていく必要があるが、コスト面で導入が難しい。

④担い手について（主にバス・タクシー）

○退職者が多く、慢性的な運転手不足であり、運行ダイヤを見直しせざるを得ない場合もある。

○整備士、事務員も不足している。

○若者の採用が進まず、乗務員の高齢化が進行している。

⑤二次アクセスについて（空港、航路、レンタカー）

○自家用車、レンタカーによる移動が多い（空港）

○自家用車、バイクによる移動が多い（航路）

○乗合タクシー等の利用方法の周知が不足している（空港）

○他の交通が空港や駅との接続強化を図っていくことが重要（レンタカー）

⑥その他

○乗合タクシーの導入だけではなく、一般タクシーの利用料金負担という選択肢もあるのではないか。

○観光施策との連携が必要ではないか（観光地での駐車場確保の問題、県を跨ぐ広域移動に当たって、レンタカーの乗り捨て利用を促すサポートの必要性など）。

○地域資源の磨き上げなどを通じた、利用者の取り込みを更に行旅っていくことが重要（3セク鉄道）

（3）調査から導き出される課題

○利用者の減少、それに伴う収益の悪化への対応

・国、県、市町村からの引き続きの支援継続と、より地域によって望ましい、実情に即した支援の在り方を追求する必要があるのではないか。

・利用者を増やす取組の充実が喫緊で必要ではないか。その際、モード連携、そして、施策連携（特に「観光」や「デジタル」など）を更に進める余地がないか。

・ネットワークやサービス水準の在り方についてを不断に見直すなど、行政、事業者、利用者等との間で、不断の見直し、率直な対話ができる関係作り。

○担い手不足の改善・解消

5. 広域路線バス乗り込み調査について（現在集計中）

（１）調査の概要

○広域路線バス乗り込み調査の実施概要及び調査の項目については以下のとおりである。

○９月中に全路線の調査を完了し、現在集計中。

実施概要

項目	概要
調査目的	○広域路線バスの属性別の利用実態（乗降場所、利用時間、利用頻度、利用目的等）の把握
調査対象	○地域間幹線系統 20 路線（全便）
調査方法	○調査員による乗り込みにより実施

項目設定

調査項目	把握内容（概要）	設問設定の意図
外出目的	・対象者の当日の外出目的の把握	・利用者の外出目的と目的地を分析することで、同じルートを走る別系統を利用しても外出目的を満たすことができるのかを検証する基礎データとして活用
利用頻度	・対象者の当該路線の利用頻度の把握	・当該路線の需要の分析による路線の利用特性の把握
支払方法	・運賃の支払方法	・支払方法別の利用実態の把握による優先すべき属性等の有無などの詳細な分析に活用
他の交通への乗り継ぎ	・公共交通の乗り継ぎ実態の把握	・乗り継ぎ実態を把握することで、路線の利用特性を把握する基礎データとして活用
基本属性	・回答者の年齢、性別、居住地	・バス利用者の属性毎の利用状況の分析による路線の利用特性の把握

（２）調査結果の分析イメージ

○便別・区間別利用状況

- ・利用が多い・少ない時間帯を属性別に把握
- ・市町村間の移動の利用状況を把握

○バス停利用状況

- ・利用が多い・少ないバス停を把握

○便別・車内乗車人員状況

- ・時間帯別に利用が多い・少ない区間を把握